

# 前田のりよし 議会NEWS Vol.22

## 最新の再エネ施設を視察



ゼロカーボンへの取り組みで、最新の再エネ施設を現地で視察。洋上風力発電、潮流発電共に日本で最初のモデルとなります。バイオマス発電は14万世帯の家庭電力に相当し、CO2の排出も抑えられるとの事、再エネアイランド九州のポテンシャルを実感しました。



下関バイオマスエネルギーを視察



木質ペレットの陸揚げ現場を視察



五島市で洋上風力発電設備を視察

## その他の活動報告

県政報告会等で活動を報告。知事への緊急要望、その他イベントや先進の技術視察を行いました。



県政報告会でコロナ対策等を報告



憲法記念日で街頭演説



ウクライナ難民支援で知事に緊急要望



アジア太平洋水サミットで齊藤国交大臣と



鰐淵文科政務官と熊本高専を視察



拉致議連のメンバーと街頭署名活動

## 《前田のりよしプロフィール》

- 1964年8月16日生まれ 58歳
- 桜木小学校、東野中学校、県立第二高等学校、熊本商科大学(現熊本学園大学)卒業
- 学習塾、税理士法人勤務を経て、平成19年熊本市議会議員初当選  
平成23年熊本県議会議員初当選 現在3期目
- 資格等：医業経営コンサルタント、CIPFA地方監査会計技術者、  
NIE(新聞による経済教育)講師指導委員・熊本支部長
- 趣味：スポーツ観戦、旅行

その他、詳しくは【前田のりよし『誠心誠意』公式Webサイト】【熊本県議会】ホームページをご覧ください。

前田のりよし『誠心誠意』公式ウェブサイト  
<http://maeda-noriyoshi.net/>  
前田のりよし公式Webサイト



誠心誠意

熊本県議会ホームページ

Instagram



twitter



facebook



住所：熊本市南区南高江6丁目19-50  
連絡先：県議会公明党  
**096-333-2645**  
携帯：090-1871-6631  
Email：maeda@komei-kumamoto.jp

## ごあいさつ

皆様方には、日頃より県政へのご指導・ご鞭撻をいただき有難うございます。新型コロナウイルス感染症の影響は様々で、特に若年世代の感染が業務停止や休職等今までにない影響をおよぼしています。ワクチン接種の効果で、重傷者の数は少ない傾向ですが県からも3密を避ける等の感染対策の徹底を訴えています。引き続き、充分にご注意下さい。さて、6月定例県議会で私が一般質問した内容やこれまでの活動の模様を紹介させていただきますので、どうぞご覧下さい。



## 議会報告 6月定例県議会で15回目の質問に立つ！

### 質問内容

1. デジタル戦略局の取組について
2. アリーナ建設構想への機運醸成について
3. HPVワクチン接種機会の周知について
4. ウィズコロナ、コロナ後の生活の在り方
  - (1) ゼロカーボンへの挑戦について
  - (2) 観光需要喚起、インバウンド再開について
5. 医療法42条施設・疾病予防運動施設の現状と認識について
6. がん患者の実態と支援策について
7. 消費者トラブル(サイバー犯罪)の対策について
8. 投票率向上へ向けて(要望)



詳しくはこちらからご覧下さい





## 【主な質問の内容】

### 質問 アリーナ建設構想への機運醸成

昨年、熊本ヴォルターズはアリーナ候補地の県内11施設を選定、自治体と協議を進めている。昨年公設で完成した沖縄アリーナは、地域経済発展に貢献し、地域の中核施設になったと聞く。県は候補地自治体の思いに関わりを持てたのか。アクセス鉄道見直し議論の中、豊肥線沿線の新たな交流や人流の結節創り、創造的復興への夢のある議論となると思うが知事の考えは。

#### 答弁（蒲島知事）

熊本ヴォルターズは、県民に夢と感動を与えた。アリーナは集客力が高く、経済波及効果、雇用創出効果など、**地域活性化の起爆剤となり得る**。スポーツ施設の整備の在り方は、県民的議論を深め、方向性を取りまとめる。熊本ヴォルターズのアリーナ構想は夢のある話である、新経営陣が**具体的構想発表後には、実現に向け全力でサポート**し、県民の夢や誇り、地域の豊かさに繋げていきたい。

### 質問 HPVワクチン接種機会の周知

子宮頸がんは予防できるがんで、HPVワクチン対象者への周知を勧告されたが、県内14市町村が未実施で、早急な改善の必要性を昨年9月に質問した。11月に積極的勧奨が再開され、機会を逃した者はキャッチアップ接種で3年間無料接種できる。2020年にはワクチン適用に男性追加の方針が発表されたが、[1]個別通知未実施市町村のその後の対応、[2]積極的勧奨再開後の対応、[3]キャッチアップ接種対象者の周知と取組、[4]男性への接種の見解を尋ねる。

#### 答弁（沼川健康福祉部長）

[1]昨年9月、直ちに市町村を訪問し、必要な情報を接種対象者等へ届けるよう働きかけた結果、ほぼ**全ての市町村で個別通知が実施された**。[2][3]**積極的勧奨再開後のキャッチアップ接種を含む対象者へ、個別通知に加え、周知強化を図った**。県の窓口や副反応等に対応する医療体制についても周知する。[4]男性への接種は、今後国の動きを注視してまいる。

### 質問 医療法42条施設・疾病予防運動施設の現状と認識

平成4年の医療法改正により、法42条に疾病予防運動施設の規定が新設され、厚労大臣の指定により**運動施設利用料が医療費の控除が可能**だが、認知度は低く、健康運動指導士の人材不足等が考えられる。県は第4次くまもと21ヘルスプランを策定し、生活習慣病の発症、重症化予防や健康づくりに取組んでいるが、次への検討段階にあると認識する。医療法42条施設の現状と認識、次期ヘルスプランへの反映について尋ねる。

#### 答弁（沼川健康福祉部長）

医療法42条の疾病予防運動施設は、医療法人等が疾病予防のため、保健・運動指導を行う施設であり、県内では現運営6施設のうち2施設は医療費控除対象となる。認知不足や健康運動指導士等の人材確保、収支面等が課題であり、**今後医療関係者や県民へ周知を図る**。次期くまもと21ヘルスプラン策定に向け、**運営状況等を把握し、治療中の運動施設の位置づけを検討してまいる**。



### 質問 がん患者の実態と支援策

終末期の療養生活実態調査では、緩和ケアの提供体制の強化が必要との結果だった。緩和ケアの実施は、公明党が強力に推進した平成19年施行のがん対策基本法に盛り込まれ、医療従事者向け研修や、がん診療連携拠点病院の専門チーム設置などの取組が進められ、一定の成果を上げていると言える。AYA世代(14歳以下、15～39歳)患者への精神的サポート、きめ細かい支援も推進していくべきである。また、大津町と益城町は医療用ウィッグ購入補助があるが、一律の支援はできないか。更に前立腺・膀胱がん患者のため、男性トイレのサンタリーボックス設置が広がっているが、緩和ケアの実情と課題、がん患者への支援策、県庁や公共施設等の男性用トイレのサンタリーボックス設置について尋ねる。

#### 答弁（沼川健康福祉部長）

緩和ケア関係研修会で医師等の専門人材は増加。多職種の緩和チームケア研修会や熊大病院との症例検討など、質の向上に取り組んでいる。がん相談支援センターでは、情報提供や相談支援、AYA世代患者の卵子凍結助成も行い、個々に寄り添った支援を行う。**医療用ウィッグ購入支援は、次期がん対策推進計画の策定で議論する**。サンタリーボックスは、県庁男性用多機能トイレや「おでかけ安心トイレ」等**県内160カ所以上に設置され、更なる情報発信に努める**。がん患者が自分らしく生きることのできる社会の実現を目指してまいる。

## 【現場で調査・意見交換】

県下の災害や課題解決へ、まずは現場に足を運び現地調査や意見聴取を心掛けます。更に地元、国と連携して解決策を探ります。



被災地の首長と意見交換  
(球磨村)



被災地の首長と意見交換  
(人吉市)



豪雨被害の人吉仮設住宅で  
お見舞いと現状調査



若い世代(ドットジェイピー)の  
メンバーと意見交換



燃油高騰で農園事業者から  
意見聴取



あさりの偽装問題で漁協組合  
関係者から意見聴取